

令和6年度

学 校 評 価 表

(中間評価) 最終評価)

東広島市立三津小学校

学校教育目標		【校訓】よく考え よく気づき やりぬく子供の育成 自他を尊重し、主体的に学び続ける児童の育成				経営理念		ふるさとを誇りに思い、夢や志をもって、これからの社会をたくましく生きるために主体的に学び続ける児童の育成			
--------	--	---	--	--	--	------	--	--	--	--	--

評価計画						自己評価				学校運営協議会による評価		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	1月						
確かな学力	2	主体的・協働的に学ぶ児童の育成	1 協働的な学びの土台となる安心して語り合える学級づくり	○学級経営や児童理解に係る研修や交流会を実施し、学びの土台となる学級づくりを充実(教職大学院派遣中の教員の研究との連携)	・学級経営や児童理解に係る研修の実施回数10回以上 ・児童の学級適応感の向上	10回以上 10回実施 1回目の調査終了			100%	3	子供たちの実態や目指す姿について考えたうえで、学級経営や児童理解に係る校内研修を実施することができた。学級適応感は、「居心地の良さ」の肯定的な回答をした児童が90%であった。まだ向上したかどうかまで見ていない。今後検証したい。	A	・授業の中で、小集団による学習深化の場面設定が用意されていて良い。	・教員同士の授業参観を取り入れながら、より児童の実態に沿った児童理解に係る研修を実施する。 ・学級適応感を調査し、比較検証する。
			2 自ら学び、他者と協働して考えを深める授業づくり	○研究授業の実施(外部講師招聘) ・自ら学び、他者と協働して考えを深める児童の姿について具体的に共通理解 ・児童が自分の学び方を振り返ることができる授業づくりを実施	・「授業では、友だちと話し合ったり、一緒に活動したりして、自分の考えを深めることができる」と答えている「児童の割合80%以上	80%以上	86%	108%	4	協議を通して目指す児童の姿について具体的に共通理解することができた。肯定的評価は86%であるが、授業で友達と話し合ったり一緒に活動したりするのが楽しいと答えた児童は95%であり、この差がどのように生まれるのか検討する必要がある。	A	・楽しいと答えれば考えも深まっているのではない。 ・学習への支援活動がもっと多様に用意されると良い。	・引き続き研究授業を通して、授業力の改善を図る。 ・教員同士の授業参観を通して、様々な学年の授業に触れることができるようにする。 ・引き続き、目標に向かった授業づくりに励み、情報共有をする。	
			3 基礎学力の定着	○テスト結果の分析と指導 ○学力補充時間を意図的に計画的に実施 ○学習のつまづきにに応じた学習支援の実施 ○ICTを効果的に活用した学習支援	・児童の学力の定着状況：単元テスト80点以上(低80%以上、高75%以上)	低80%以上 高75%以上	低80% 高79%	低100% 高105%	4	低学年の単元テスト80点以上の児童は80%、高学年は79%であった。また、低学年の国語科平均89点、算数科の平均88点、高学年の国語科平均89点、算数科平均80点であった。算数科では個人差が大きく、個別の支援が課題である。スキルタイムの進め方など、学校全体で課題克服に取り組む必要がある。	A	・登下校の課題もあるが、学習支援に地域の方のヘルプをお願いしてはどうか。 ・課題に正面から向き合っていることが良いと思う。	・スキルタイムがより効果的なものとなるよう教務部において次の視点で協議し、改善策を提案する。 ①タブレット学習の効果的な活用。 ②単元テストの課題項目に重点を置く。	
			4 読書活動の充実	○全学級で読書を増やす取組の実施 ○学校図書館、安芸津図書館を積極的に活用し、読書記録を蓄積	・児童の読書数を教師が把握100%	100%	100%	100%	3	児童に読書カードを記入させることで、教師が児童の読書数を把握することはできた。一方、目標冊数に達していない児童が多いため、児童が進んで読書に取り組めるように定期的に声掛けをする必要がある。	B	・目標冊数ばかりにならずに読書内容にも目を向けると良い。 ・保護者も読書冊数について知る機会があると良い。 ・ICT(電子書籍)も活用してはどうか。多様な「コトバ」との出会いをチャレンジさせる方を考えてほしい。 ・読書へのきっかけとなるような取組をお願いしたい。	・月ごとの目標冊数とページ数を児童に伝え、目標に向けて進んで読書に取り組めるような声掛けを行う。また、全校での俳句・短歌づくりの取組により児童の語彙を増やす取組を継続していく。	
豊かな心の育成	1	自他を尊重し、児童の思いやりや協働意識を育成	5 自己肯定感の向上	○生活目標の肯定的評価を効果的に実施 ○児童による相互評価カードの取組の充実	・「自分にはいいところがあると答える児童の割合85%以上	85%以上	81%	95%	2	放送委員が朝の放送で毎日呼びかけることで、生活目標への意識付けができた。また、生活朝会で前月の生活目標の振り返りを取り入れることで、目標に向けて頑張っている児童のよい姿を紹介することができた。	B	・子供一人一人が自分のことについて考え、知る機会が自己肯定感を高めることにつながるのではないかと。 ・今後の進め方を工夫し、子供たちのモチベーションが上がるように工夫してほしい。 ・自信をもって児童が学習に取り組んでいることが、とても良い。	・放送委員の呼びかけや生活朝会での生活目標の振り返りは効果的であると思われるので、継続する。また、後期には、児童による相互評価カードの取り組みを学級単位で行う。	
			6 共感的人間関係の育成	○縦割り班活動(掃除、遊び)の充実 ○相手意識をもって取り組む生徒指導重点目標「三津っ子スタンダード(掃除・挨拶・言葉遣い)」の定着	・「縦割り班で協力して活動している」と答える児童の割合85%以上	85%以上	93%	109%	4	・縦割り班の融合させ方や一年生を迎える会では、自己紹介やゲーム等を縦割り班で行い、良い雰囲気の中でスタートすることができた。 ・縦割り班指導では、担当職員が掃除指導を行いながら、高学年が中心となって掃除を進めることができる。	A	・取組がすばらしい。 ・上級生の下級生に対するやさしい指導に好感がもてる。 ・仲良くなることと馴れ合いは違う。学年を越えた子供同士の関係が良いバランスになればと思う。	・「三津っ子スタンダード」の生活目標の月には、相手の気持ちも考えられるように指導や投げ掛けをしていく。 ・生活朝会での取組は継続していく。	
			7 自己有用感の向上	○当番や係、児童会、委員会活動の充実 ○感謝の気持ちを大切に取る取組の実施	・「人のために役立つ行動や活動ができた」と答える児童の割合80%以上	80%以上	81%	101%	4	・縦割り班活動だけでなく、新体力テストや給食準備、運動会の練習等と異学年間士の関わりをつくることで、他の学年の役に立つ行動や感謝の気持ちを言葉やメッセージで伝えることができた。	B	・「共に」という意識を持ち、主体的に取り組んでほしい。 ・表情など、言葉だけでなく伝ええるコミュニケーションの技法を教師が引き出すとよい。	・行事等で、準備や進行など支えてくれた児童の頑張りにも気付くように促し、そのような行為の価値づけを行うとともに、感謝の気持ちを伝える機会をつくる。 ・学級や委員会、児童が自分たちで考えたり決定したこと主体的に取り組む機会をつくる。	
たくましく育つ児童の育成	3	気力・体力の向上	8 体を動かすことが好きな児童の育成	○適切な目標の設定やスモールステップによる成功体験の積み上げ ○ロング昼休みの充実 ○縦割り班活動(遊び)の充実【再掲】	・「運動が好き」と答える児童の割合80%以上	80%以上	88%	110%	4	・ロング昼休みをもち、全校遊びを楽しむことができた。 ・学級遊びをすることで、運動に対して前向きでない児童も参加することができる。 ・休時間間、多くの児童が進んでサッカー等の外遊びを行うことで、自然に持久力や瞬発力などをつけることができた。	A	・全校遊び、学級遊びと大人数での遊びは機会を得るのが難しいため、良い試みだと思う。 ・しっかりと基礎体力をつけてあげてほしい。	・個に合わせた目標の設定やスモールステップによる成功体験の積み上げをしていくことで、体を動かすことが好きな児童を増やす。 ・引き続き、全校遊びや学級遊び等を通じて、楽しく体を動かす機会をつくる。	
			9 「粘り強さ」の向上	○適切な目標の設定やスモールステップによる成功体験【再掲】 ○目標達成のプロセスを見える化し、教師による積極的な足場がけ	・「体力テスト強化種目の記録を更新できた児童の割合80%以上	80%以上			見とりは未実施	#####	・体力テストでは、学年ごと、男女別の記録から、傾向を掴み、強化種目を把握することができた。(1～4年：立ち幅跳び、5～6年：長座体前屈)強化種目に向けて取り組みを始めたところである。	N	・目標や伸びが児童にも見える化できると良い。 ・児童が昨年度の記録と比較できると良いのではないかと。 ・効果的な運動が、結果につながってほしい。 ・小さな目標を意識させることや相互評価を取り入れることなどを検討してほしい。	・体力テストの強化種目に向けて持続的に取り組ませることで、記録の更新を促す。
信頼される学校	4	地域とともにある学校 働きがいのある学校	10 コミュニティスクールと地域学校協働活動の推進	○地域学校協働活動の充実 ○地域の方からのフィードバックによる改善	・「地域が好き」「自分も地域の役に立ちたい」と答えた児童の割合80%以上	80%以上	92%	115%	4	・「地域が好き」の肯定的回答が95%、「役に立ちたい」は88%であり、平均で92%であった。学校行事や学年の活動等で地域のボランティア(支援)の方とともに活動できた成果だと考える。	A	・「地域が好き」がすばらしい。 ・学校の地域への関りが良いと思う。 ・行事(年間を通して)や授業で地域と関連したものをつくみかける。子供たちの地域愛に繋がっているのだと思う。	・引き続き「自分たち」にできることは何かを問い掛けながら、教育活動を推進していく。自分たちもできることがあるという実感をもたせながら、「役に立ちたい」思いを育てたい。	
			11 働き方改革の推進	○学校が担うべき業務に専念できる環境整備 ○業務改善の取組の交流 ○相談し合える風通しのよい職場づくり	・働きがいがあると答えた教職員の割合85%以上	85%以上	100%	118%	4	PTA活動や地域行事において、学校がするべきこと、保護者・地域に任せることと協議しながら進めている。相談しあえる風通しの良い職場づくりは、管理職を中心に推進している。	A	・遅くまで残ってらっしゃる先生方が早く帰って、仕事とプライベートを切り離せるよう期待します。 ・地域の文化センターとしての学校の機能を最大限に生かしてほしい。	・学校がするべきことと、保護者・地域に任せるとは引き続き協議しながら、行事等を進める必要がある。教職員それぞれの業務改善の工夫を交流し、共有する場ももちたい。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

達成値/目標値を百分率で表示する

4...目標を上回って達成
3...目標とおり達成
2...目標をやや下回って達成
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)

A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない
(N...判定できない)